

株式会社テクノマセマティカル

2019年3月期<第19期>

決算説明会

資料

■ Algorithm Specialist

TMC

2019年5月21日

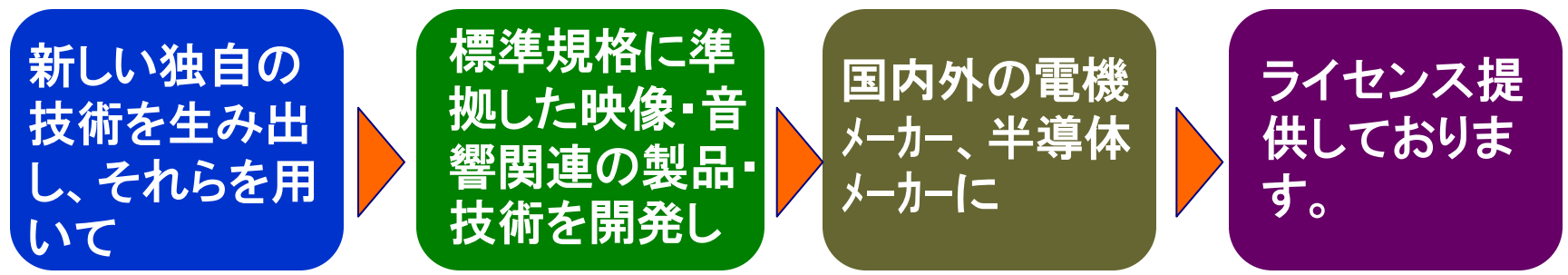
Agenda

1. 事業概要
2. 今期決算と来期予想
3. 売上内訳
4. B/S、C/F
5. 来期(2020/3期)について
6. これからの事業展開について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について



- ① 高圧縮率
 - ② 高画質
 - ③ 低消費電力
 - ④ 低遅延
- が実現できるデータ圧縮技術を開発、提供し続けます。

1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から
“アルゴリズム開発” をビジネスの基幹と位置付け



DMNAを圧縮／伸張処理に応用

ソフトウェアIP

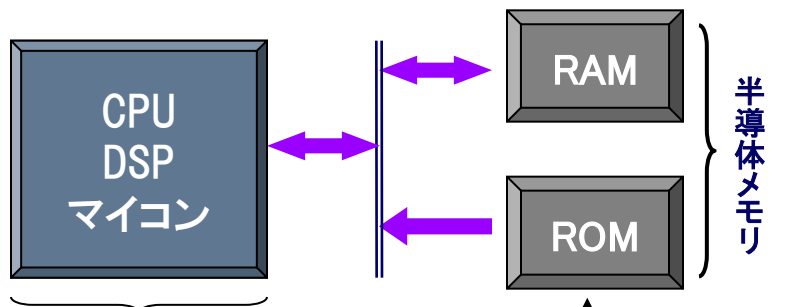
ハードウェアIP

ソリューション事業

単機能LSI/ボード

1-3 製品形態

ソフトウェアIPライセンス



マイクロプロセッサ

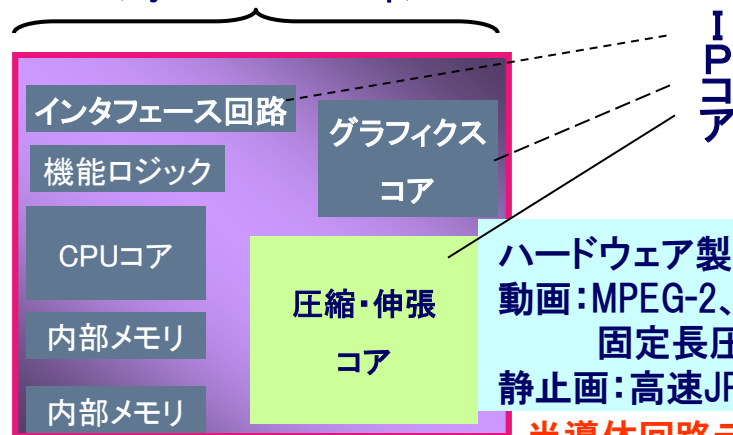
- ・ルネサスエレクトロニクス
- ・富士通
- ・Intel
- ・TI
- ・Freescale
- ・ARM
- ・MIPS
- ・SOCIONEXT

ソフトウェア製品
音響:MP3、AAC、AC3
動画:MPEG-4、H.264/5
静止画:JPEG等

実行ファイル

ハードウェアIPライセンス

SoC (System on a Chip)



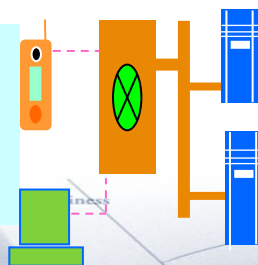
ハードウェア製品
動画:MPEG-2、H.264/5
固定長圧縮
静止画:高速JPEG等

半導体回路データ

ソリューション関連

INTERNET

- ・配信システム
- ・WiFi対応
- ・Video,Audio配信システム
- ・各種ソリューション



単機能LSI

- ・ MPEG-2_HD
- ・ 超解像スケーラ
- ・ H.264_HD

半導体チップ

1-3-1 機器の遠隔操作

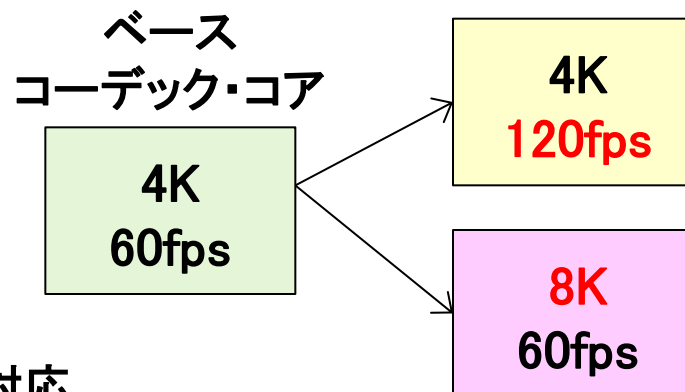


1-3-2 HEVCコーデック(HW)

- HEVCの圧縮性能は、「MPEG2の4倍、H.264の2倍」の高圧縮。
TMCのHEVCコーデックは、数学的手法を駆使した独自のコンピュータアルゴリズム「DMNA」を用い、高画質・高性能が特徴。
小型・低消費電力化を実現し、競合他社比「50%以下」とコンパクト。

■ 製品展開

4K 60fpsをベースコアとして、
4K 120fps / 8K 60fpsに展開。



- H.264+HEVC のマルチコーデックに対応。
 - H.264: High プロファイル
 - HEVC: Main/Main 10/Main 4:2:2 10 プロファイル

- TMCのHEVCコンパクト・コーデックは、FPGAに実装可能。

例: Arria10 GX570/660、SX570/660

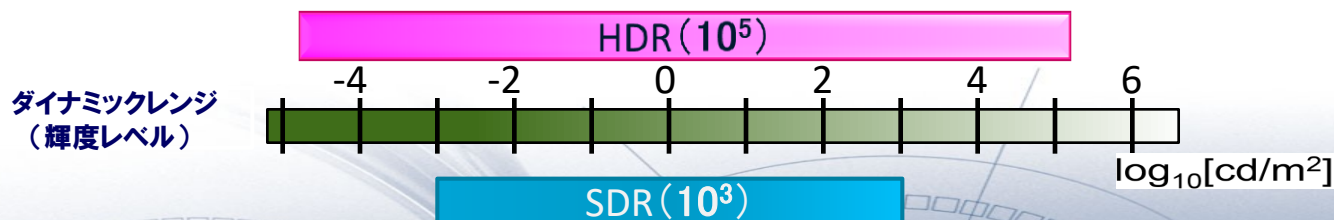
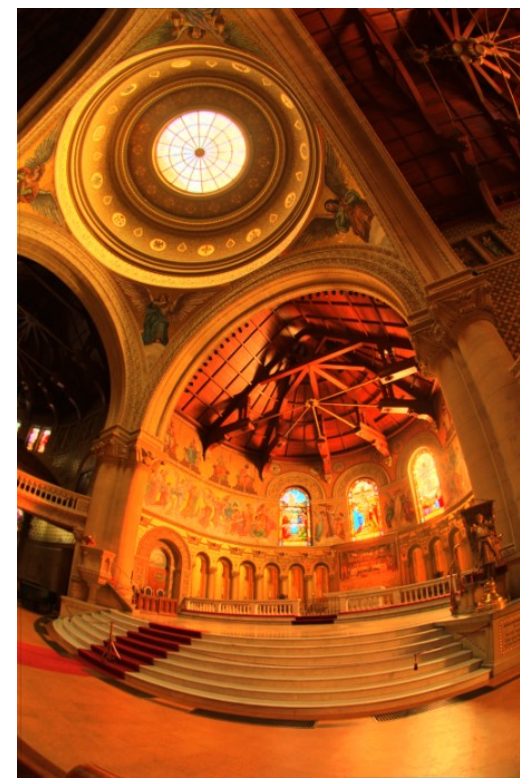
Kintex7 325、Virtex7 VX690/550

1-3-3 SDR⇔HDR変換(with AI)

SDR・HDRコンバートソフトウェア



輝度レベル100倍



1-4 当社事業の特徴

1. 独自技術により、差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス・ロイヤルティモデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像 / 音響 / 音声製品

4. 事業領域拡大による収益力の向上

既存 / 新規の技術を応用したソリューション分野への展開

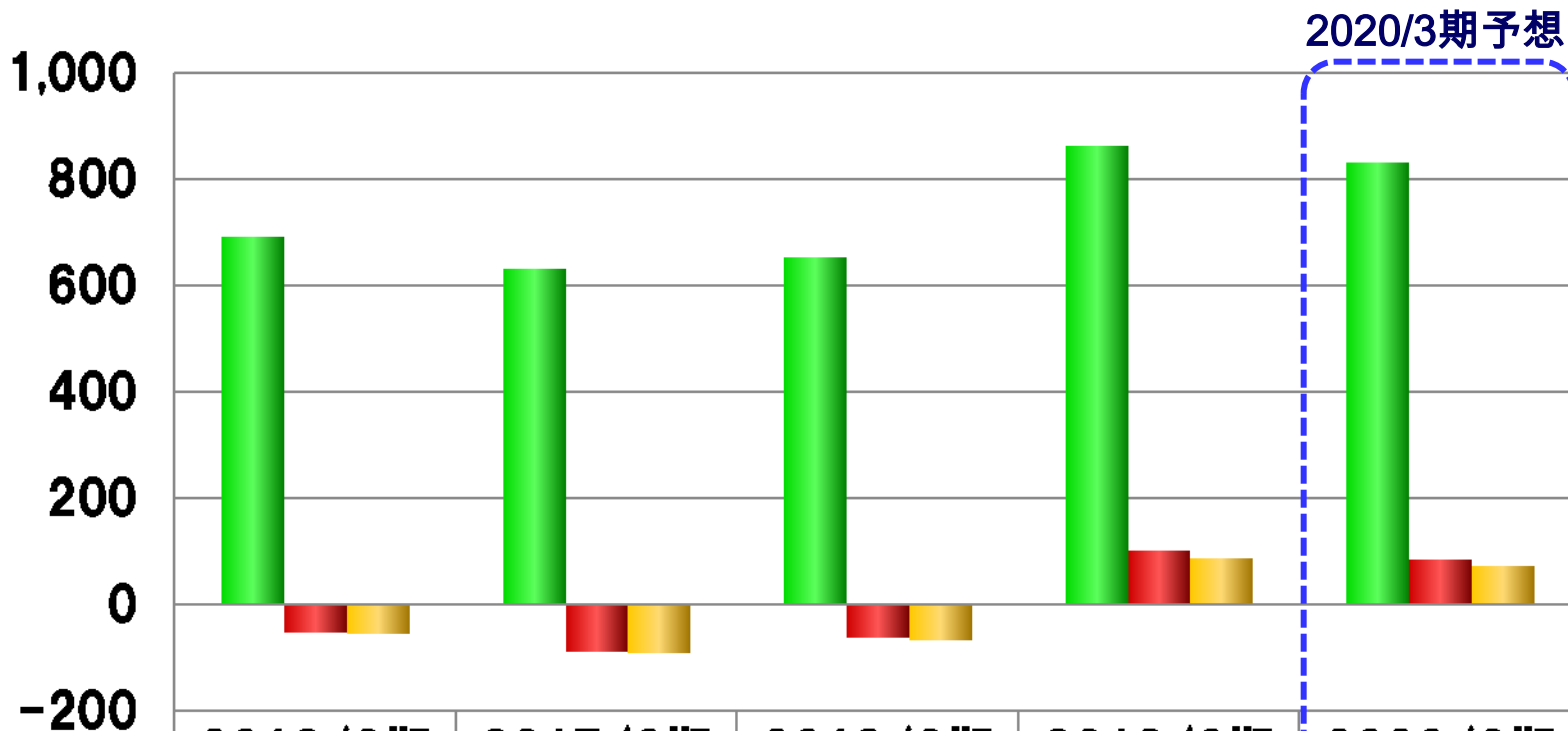
2-1 損益計算書推移

(単位:百万円、%)

	2018/3期(実績)			2019/3期(実績)			2020/3期(予想)		
	金額	構成比	前期比 増減額	金額	構成比	前期比 増減額	金額	構成比	前期比 増減額
売上高	651	100.0	22	860	100.0	208	830	100.0	△ 30
売上総利益	596	91.6	19	744	86.5	147	730	87.9	△ 14
販売管理費	663	101.8	△ 4	646	75.2	△ 16	650	78.3	3
営業利益	△ 66	△ 10.2	23	97	11.2	163	80	9.6	△ 16
経常利益	△ 63	△ 9.7	26	100	11.7	164	84	10.1	△ 16
当期純利益	△ 69	△ 10.6	23	85	9.9	155	71	8.5	△ 14

2-2 業績の推移

2019/3期 要因 ◆ 売上高 ソリューション事業での大型案件獲得、ハード部門好調により32%の大幅増収
 ◆ 損益 大幅な増収効果で各種コストを吸収し、6期ぶりの黒字達成



	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期
■ 売上高	691	629	651	860	830
■ 経常利益	△ 55	△ 90	△ 63	100	84
■ 当期純利益	△ 58	△ 93	△ 69	85	71

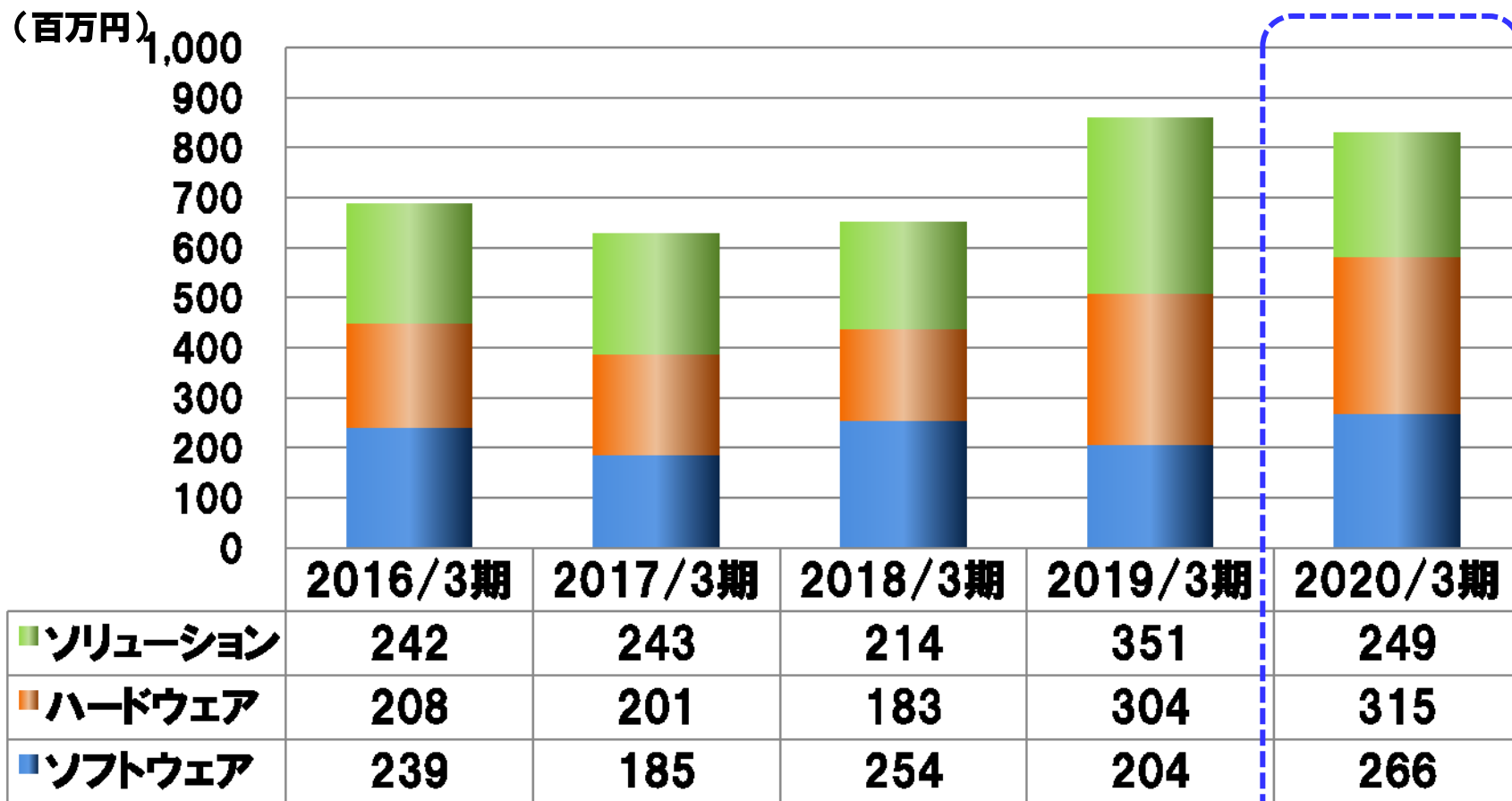
3-1 売上の内訳(事業区分別)推移

◆IP事業は前期比16%増・・・ソフトウェアは19%減となるもハードウェアが66%の大幅増

◆ソリューション事業は前期比64%増・・・TV局向け大型案件獲得や各種開発案件積み増しで

2019/3期

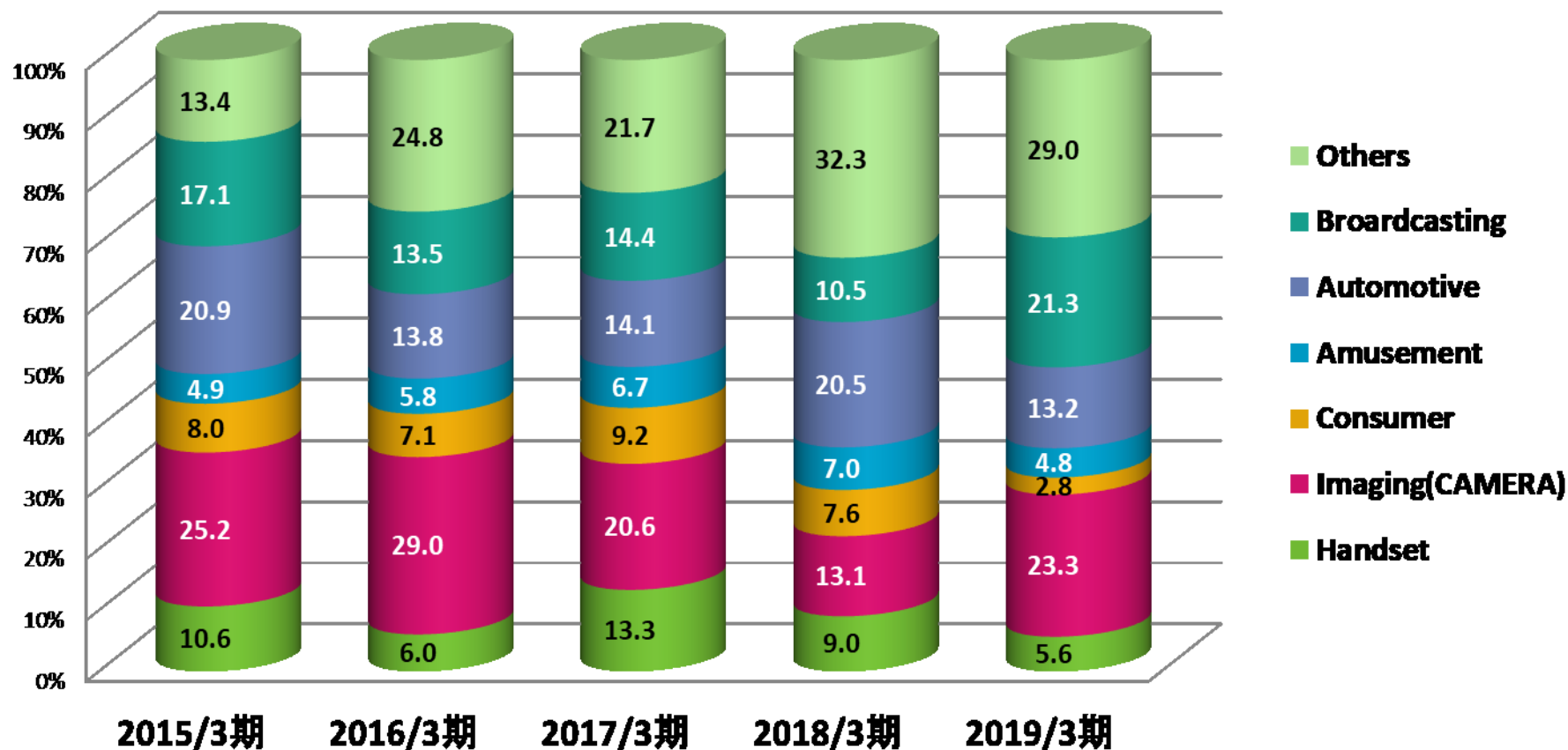
2020/3期予想



3-2 売上の内訳(対象市場別)推移

◆ソリューション事業でTV局向け送り返し装置案件獲得、ハードウェア・ライセンス事業でデジカメ向け案件増加し、Broadcasting、Imagingの比率がそれぞれ拡大

◆他項目は実数ほぼ横ばいなるも、上記項目実数増の影響で構成比率は縮小



4-1 貸借対照表 (2019年3月31日)

(単位:百万円)

	前々期末 (2017/3期末)	前期末 (2018/3期末)	当期末 (2019/3期末)	構成比	対前期末比 増減
流動資産	2,025	1,960	2,065	71.8%	104
固定資産	809	812	809	28.1%	△ 3
資産合計	2,835	2,773	2,875	100.0%	101
流動負債	98	96	112	3.9%	16
固定負債	4	7	6	0.2%	△ 0
純資産	2,732	2,670	2,755	95.8%	84

4-2 キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)	前々期 (2017/3期)	前期 (2018/3期)	当期 (2019/3期)	対前期比 増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 167	△ 31	△ 130	△ 98
投資活動による キャッシュ・フロー	298	0	△ 3	△ 3
財務活動による キャッシュ・フロー	—	△ 0	—	0
現金及び現金同等物 の増減額	130	△ 31	△ 132	△ 100
現金及び現金同等物 の期首残高	420	550	519	△ 31
現金及び現金同等物 の期末残高	550	519	387	△ 132

5-1 2020/3期業績見通し

(単位:百万円)

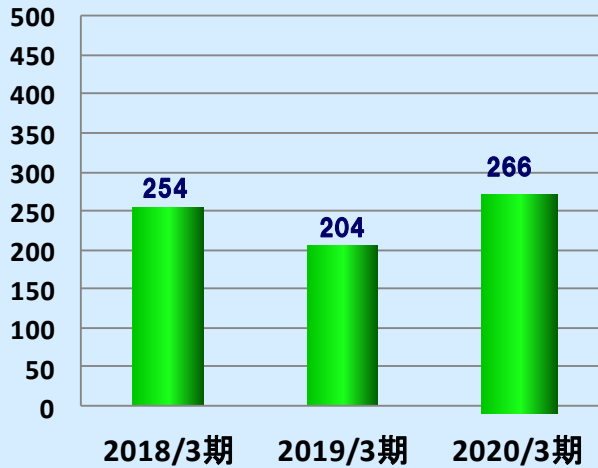
	予 想	増減	増減率	2019/3期実績
売 上 高	830	△ 30	△ 3.5%	860
経 常 利 益	84	△ 16	△ 16.8%	100
当 期 純 利 益	71	△ 14	△ 17.3%	85

- ◆ ソフトウェアライセンス＝配信システム、携帯端末、車載機器向け中心に需要見込む
- ◆ ハードウェアライセンス＝デジカメ、表示装置向け中心にH.265、4K/8K、固定長、デムラ圧縮見込む
- ◆ ソリューション＝低遅延小型版伝送装置、H.264/265ボード、その他各種配信システム案件も見込む

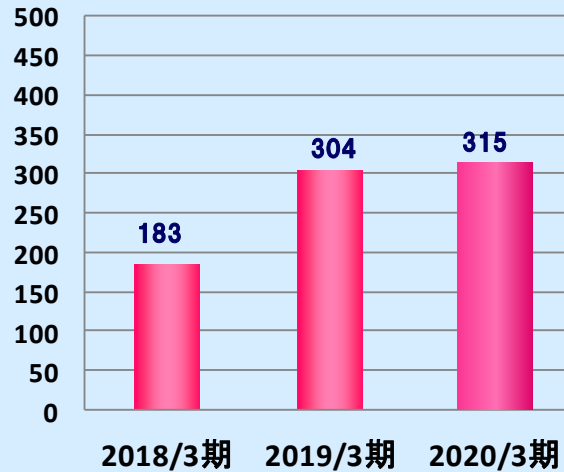
5-2 事業区分別売上予想

＜売上高＞（単位：百万円、2018/3期、2019/3期は実績、2020/3期は予想）

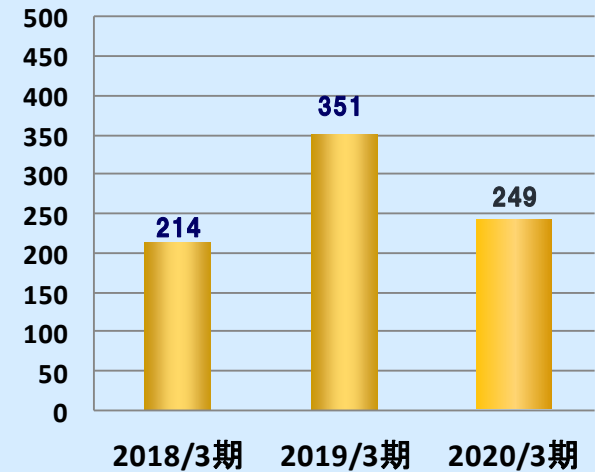
ソフトウェア事業



ハードウェア事業



ソリューション事業



予想基礎

- ・オーディオ、ボイス関連は**携帯端末、車載、音声認識**向けに伸び見込む
- ・**各種配信システム**関連でH.264/H.265等ビデオ関連は底堅い需要見込む

- ・**デジカメ、放送機器**向け中心に**H.265、4K/8K**案件獲得目指す
- ・**ディスプレイ装置**向け中心に**固定長圧縮、デムラ圧縮**などの伸び見込む

- ・**低遅延小型版伝送装置**の国内外での拡販見込む
- ・**H.264/HEVCモジュールボード**や各種システム構築案件の獲得見込む

5-3 2020年3月期における課題

1. 売上拡大

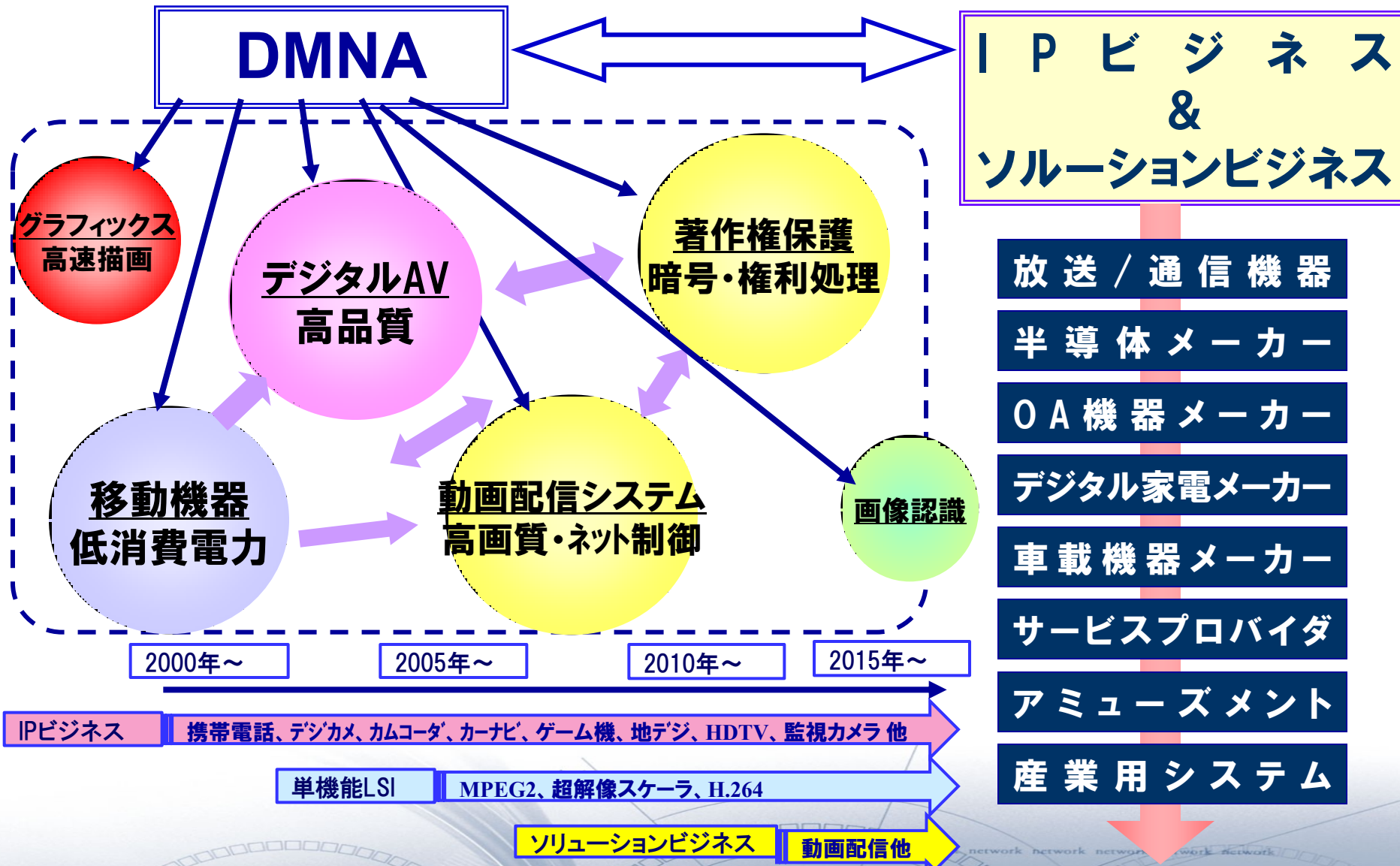
- (1) IPライセンス事業: 4K/8K/H.265/固定長圧縮/FPGA案件/
認識率向上SW案件の獲得
- (2) ソリューション事業: ・低遅延小型版装置の国内外での拡販
・各種開発案件獲得(放送/通信/防衛)
・市場ニーズを先取りした新製品開発

2. 海外ビジネスの対応強化と案件数拡大

3. 全部門の意識改革による黒字体質の構築

4. 既存技術の高機能化・高性能化による差別化/優位性の維持・強化

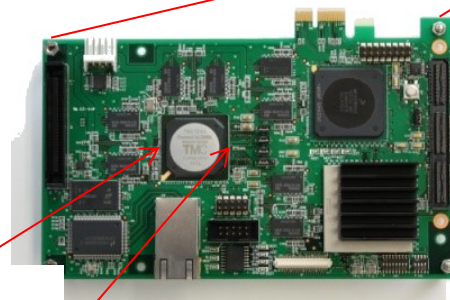
6-1 ビジネス展開の推移



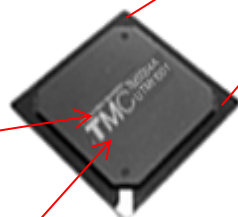
6-2 IPビジネスとソリューションビジネス



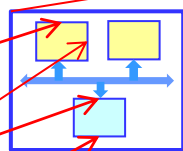
ボックス



ボード



チップ



IP

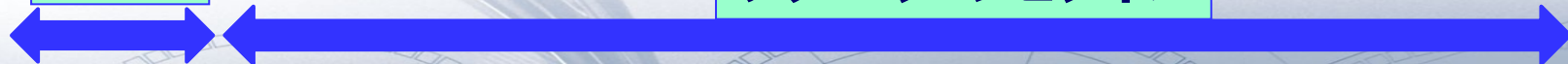
ソフトウェア

ハードウェア

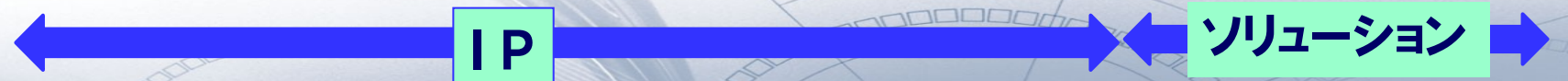
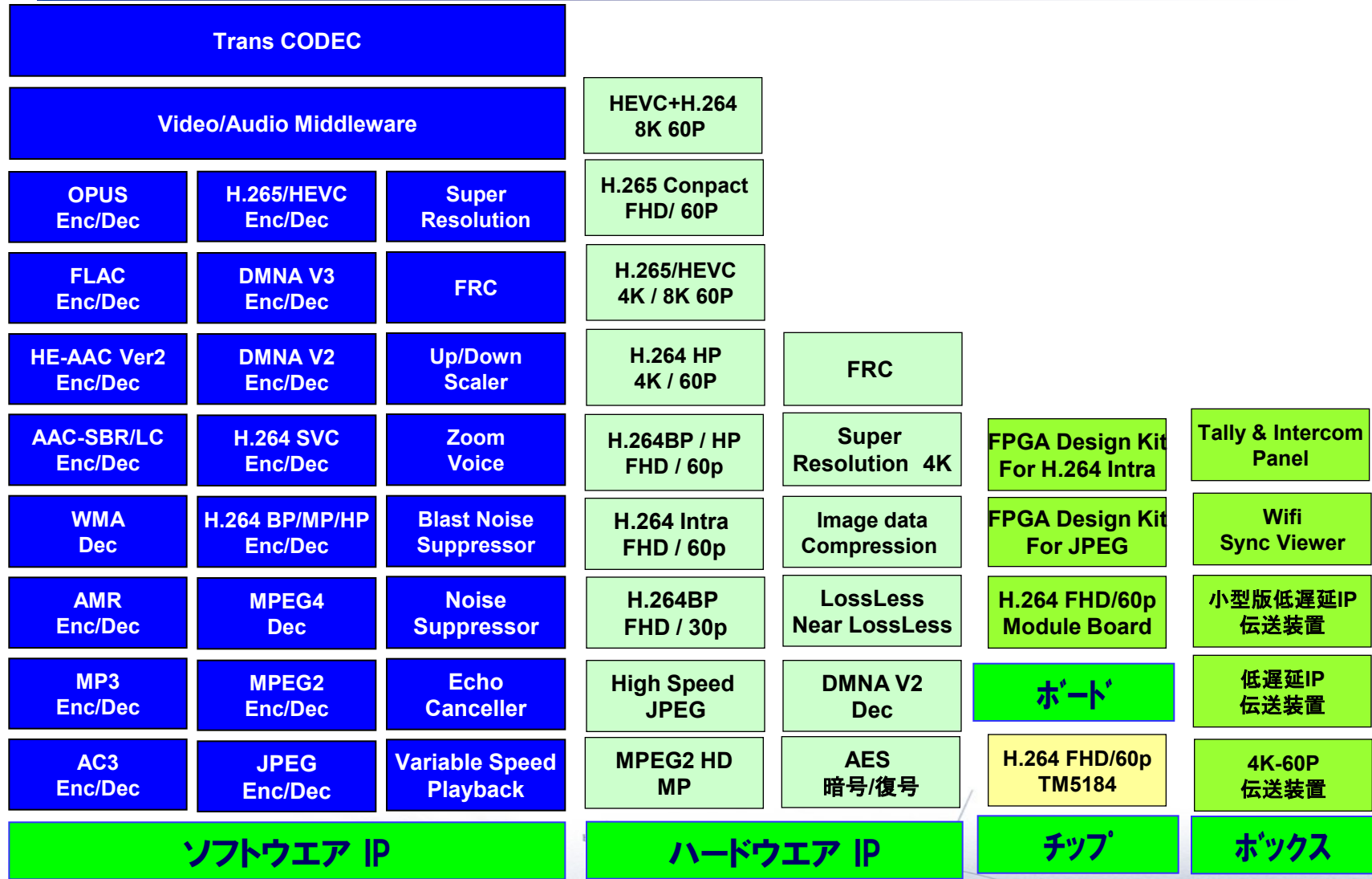
モジュール

IP
ビジネス

ソリューションビジネス



6-3 IPビジネスとソリューションビジネス



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-3492-3633 E-mail:ir@tmath.co.jp